

投影用スライド

Pepperからのお手紙 ～生成AIリテラシーについて学ぼう！～

制作協力 : 静岡大学教育学部 准教授 塩田真吾

監修 : 落合陽一

ソフトバンクロボティクス株式会社



はじめに



- 高度なプログラミングを必要とせず、自然言語による指示で、様々なアウトプットを生成してくれるAIが登場し、実際に世の中で活用が進んでいるよ！
- でも、利用の仕方によってやトラブルに巻き込まれたり、自分の人間としての能力開発によくない影響を与える可能性もあるんだ。
- 生成AIを上手に使うための知識と方法を学び、有効に活用しましょう！

最初にチェックしてみよう

- ☐ 私は、どのような生成AIが存在し、世の中で活用が進んでいるか説明することができる
- ☐ 私は、生成AIを活用する場面で想定されるリスク、トラブルについて説明することができる
- ☐ 私は、リスク、トラブルに対応する方法を知っており、適切にAIを活用することができる
- ☐ 私は、生成AIをはじめとしたテクノロジーを正しく理解し、判断し、将来に役立てたいと思う

①生成AIとは何か



- 生成AIと呼ばれる技術の普及と活用が進んでいます。
- 以下の選択肢の中で既に実用化されているAIは何個あるか考えてみましょう。

選択肢

A
長文要約AI

B
自動プレゼンテーション
資料作成AI

C
AI搭載のスマート
コンタクトレンズ(ARメガネ)

D
プログラミングのコードを
書いてくれるAI

E
作曲家AI

F
電子書籍を、好きな人の声で
読んでくれるAI

G
データ分析・自動グラフ作成
AI

H
画家AI

①生成AIとは何か

- 生成AIとは、何らかのコンテンツを出力するために利用されるAIの総称です。近年、AIモデルの進化・学習量の増大により、出力の精度が高くなったことで、注目されています。
- 生成AIに指示を出す自然言語（言葉）を「プロンプト」といいます。自然言語の指示が、言葉ではない様々なコンテンツとして出力されるようになったのが生成AIの特徴です。このプロンプトに「何を入力するか」が、出力結果に大きく影響します。
- 世の中で利用がはじまっている生成AIには、コンテンツの種類によって、大きく分けると以下の4つがあると言われています。

製品レベルで
実現
されている

文章生成



ChatGPT(OpenAI社)
Bing(Microsoft社)

A・D

画像生成



Stable Diffusion
(Stability AI社)
Midjourney
(Midjourney CEO)

H

音楽生成



MuseNet(OpenAI社)
CREEVO(京都大学)

E

作業



Microsoft 365 Copilot
(Microsoft社)

B・G

研究レベルで
実現されている

C・F

実現の目処が
立っていない

なし

②利用リテラシーを身につけよう

- 生成AIは大変便利ですが万能ではありません。
不得意なこと、利用方法を誤るとリスクやトラブルにつながる可能性があります。
- リスクやトラブルにつながる使い方を分類してみましょう。

選択肢

- a. 他者著作物に類似した作品の授業中利用
(類似著者を明示した上での発表)
- b. 他者著作物に類似した作品のコンクールやコンテスト提出
- c. 秘密情報・個人情報の入力
- d. 真偽確認を経ていない出力内容の利用
- e. 個人に紐づく虚偽の出力内容の利用
- f. 他者権利物に類似しない出力画像・キャッチコピーの商用利用
(商品ロゴ・広告宣伝キャッチコピー)
- g. AIサービスの利用規約・ポリシーを確認せず利用
- h. 出力内容を十分に推敲し・改変した上での利用

回答欄

↑ 他者に迷惑をかける
他者の権利を侵害する。

リスク
高

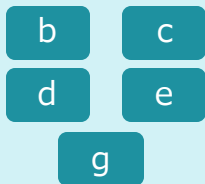
リスク
低

↓ 生成AIを安全に利用している。

②利用リテラシーを身につけよう

- 以下4つの観点に該当しないかどうか留意して生成AIを利用しましょう。
- 今後さらに新しいAIとそれに付随する注意事項が登場してくる可能性があります。
世の中のテクノロジーの発達に意識を向け、日頃から情報に敏感になりましょう。

リスク高



権利侵害

(著作権・商標権・意匠権など)

他者が作ったもの、商業上の権利を持っているものを勝手に使ったり、似た者を真似て作ったりすると権利侵害になることがあります。生成AIの制作物が権利侵害に当たらないように利用しましょう。

b

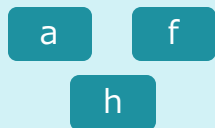
c

虚偽情報の流布

生成AIは必ずしも本当のことを出力してくれるとは限りません。あたかも本当のような嘘の内容を出力することをハルシネーションといいます。生成AIの出力を利用するときは、自分でもその真偽について確認しましょう。

d

リスク低



情報漏洩

生成AIはデータを学習して出力を行います。個人情報や機密情報を入力すると、それが出力内容に含まれ情報が漏洩する可能性があります。重要で保護すべき情報は入力しないようにしましょう。

e

規約違反

生成AIを活用したサービスには提供元が使用ルールを定めている場合が多くあります。利用年齢制限など、自分が守るべきルールを把握して利用しましょう。

g

③活用について考えよう

- 日々の学習活動の中でも、生成AIを様々な場面で活用できると考えられますね。
- 以下の学校内で考えられる困りごとに対し、生成AIを活用するときに注意すべきことを考えてみましょう。

困りごと1

授業のグループディスカッションで議論が行き詰ってしまったので、新しい視点のアイデアが欲しい

困りごと2

アンケートを分析する時間を多くとりたいので、グラフ化には時間をかけたくない

困りごと3

絵を描くのが得意でないメンバーで、学内イベントのポスターを作らないといけませんが、どうやってポスターをデザインすればいいだろうか？

困りごと4

英語で書いた日記を誰かに添削してほしいが、夏休みですぐに先生に頼むことができない

③活用について考えよう

- 生成AIの活用方法には様々なものがあります。皆さんが独自に活用方法を考え出し、日々を学習活動を効率的で効果的なものにすることが期待されます
- ただし、活用に際しては、リスクやトラブルを避けるよう意識しましょう。
また、十分な検討を経て、自分の考えや仮説を持った上で利用するようにしましょう。

困りごと1

文章生成AIにこれまでの議論をインプットし、さらなるアイデアのヒントをもらう。

※十分に議論せず、はじめからAIにヒントをもらわないようにしましょう

困りごと2

生成AIを活用したグラフ作成ツールにアンケート結果をインプットし、グラフ化を行う

※入力するデータに個人情報が含まれないように注意しよう。

困りごと3

画像生成AIにイベント内容/テーマを入力し、ポスター案を描いてもらい、構図などを参考にアレンジする。

※AIが描いたポスターをそのまま使わないようにしよう。著作権の問題などを確認しよう。

困りごと4

文章生成AIに自分が書いた英語日記をインプットし、文法的に正しく修正するようリクエストして、元の文章とくらべてみる。

※文法的に差異があった場合は、自分で教科書や先生に聞くなどして内容を確認しよう。嘘をついている可能性もあります。

- 以下の重要なポイントに留意してAIを活用しましょう。

【重要なポイント】

- 利用するサービスの規約・ポリシーを確認する
- 他者の権利を侵害しない利用を行う
- 生成された情報には不正確なものや虚偽の内容が含まれることを理解し、自らファクトチェックを実施する
- まずは自分で考え、調べ、やりたいことに対する自分なりの回答や仮説を持ったうえで、AIを活用する

最後にチェックしてみよう

- ☐ 私は、どのような生成AIが存在し、世の中で活用が進んでいるか説明することができる
- ☐ 私は、生成AIを活用する場面で想定されるリスク、トラブルについて説明することができる
- ☐ 私は、リスク、トラブルに対応する方法を知っており、適切にAIを活用することができる
- ☐ 私は、生成AIをはじめとしたテクノロジーを正しく理解し、判断し、将来に役立てたいと思う

さいごに・・・Pepperからのメッセージ



- みんな、生成AIを使うときに気をつけることはわかったかな？
- 生成AIはとっても便利だけど、何を願うするか、みんなの中にある知識やアイデアがとっても大切です。
AIを上手に活用できるよう、日頃の勉強や活動がんばってね！
- 今後、色んなテクノロジーが登場して、未来を変えていくと思うんだ。
どんなテクノロジーが生まれても、それが他の人の役に立つように正しく、有効に使えるようにしていきましょう！

pepper
for Education